

# 事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

1120

地域自立生活支援事業

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政策	9	将来に向かって希望の持てる福祉社会の形成
施策	2	高齢者の生活の充実
取組方針	1	高齢者が住み慣れた地域で自立して暮らすことのできるまちづくり

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	介護保険事業特別会計		
	款	地域支援事業費		
	項	包括的支援事業・任意事業費		
	目	任意事業費		
	大事業	任意事業		
	中事業	地域自立生活支援事業		

事業種別	継続		関連個別計画			
事業年度	平成12年度	～	無し	担当課・担当課長・Tel	地域包括支援課	山路正晴
事業実施の根拠法令	介護保険法第115条の4第3項第3号		関連課	435-1197		

## 1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	高齢者の自立生活の継続のため、住み慣れた地域で継続して生活することが可能となるサービスを実施する。		高齢者の自立生活の継続のため、住み慣れた地域で継続して生活することが可能となるサービスを実施する。			
事業内容		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度
		①高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業 ②配食サービス事業	①高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業 ②配食サービス事業	(高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業)生活援助員(LSA)が入居者の安否確認や緊急時の対応等を実施。 (配食サービス事業)定期的に居宅に訪問して栄養バランスのとれた食事を提供するとともに当該利用者の安否確認を行う。	(高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業)生活援助員(LSA)が入居者の安否確認や緊急時の対応等を実施。 (配食サービス事業)定期的に居宅に訪問して栄養バランスのとれた食事を提供するとともに当該利用者の安否確認を行う。	(高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業)生活援助員(LSA)が入居者の安否確認や緊急時の対応等を実施。 (配食サービス事業)定期的に居宅に訪問して栄養バランスのとれた食事を提供するとともに当該利用者の安否確認を行う。

## 2 事業コスト

事業費等(千円)	平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和02年度		令和03年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	35,965	33,736	36,656	33,044	33,718	34,900	38,045	0	38,045	0
伸び率(%)	△0.4%	△2.8%	1.9%	△2.1%	△8%	5.6%	12.8%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	2,234	2,234	2,238	2,238	3,625	3,625	3,142	0	3,142
	正規職員以外	977	977	1,021	1,021	1,574	1,574	0	0	1,574
	小計	3,211	3,211	3,259	3,259	5,199	5,199	4,716	0	4,716
国庫支出金	14,026	13,157	14,913	12,722	13,817	13,436	15,546	0	15,546	0
県支出金	7,013	6,578	7,456	6,331	6,908	6,718	7,773	0	7,773	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	7,912	7,421	9,155	7,600	8,454	8,027	9,537	0	9,537	0
一般財源(税等)	7,014	6,580	5,132	6,391	4,539	6,719	5,189	0	5,189	0
所要人数 (人)	正規職員	0.28	0.28	0.28	0.28	0.45	0.45	0.39	0.00	0.39
	正規職員以外	0.43	0.43	0.43	0.43	0.69	0.69	0.69	0.00	0.69
主な予算内訳	シルバーハウジング生活援助員派遣事業委託料 17,609千円									

## 3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
活動指標	配食サービス延べ利用回数	回	目標値					
			実績値	169580	155968	172914		
			達成度(%)	%	%	%	%	%
成果指標	配食サービス利用実人数(3月末時点)	人	目標値					
			実績値	551	581	599		
			達成度(%)	%	%	%	%	%

#### 4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

#### 5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持		○		
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	高齢化の進展及び単身世帯の増加が進む中、事業の継続は必要と考える。 (人件費の増額により、事業費は増額となっている。)
見直し・改善内容	安否確認の確実な実施やメニューの充実など、業務委託法人との連携を深め事業を継続する。